

# お天気解説

## アキラのズバッと

### じわじわと進む温暖化

令和5年5月19日

江戸川区気象防災アドバイザー 藤井 聡

暑い日が続き、江戸川臨海では18日に最高気温が31.3℃と5月の新記録になりました。都心では32.2℃と都内のほとんどは真夏日となりました。週末はいかがでしょうか。

東京都の天気予報（7日先まで）			
2023年05月19日11時 気象庁 発表			
日付	今日 19日(金)	明日 20日(土)	明後日 21日(日)
東京地方	曇後雨 	曇一時雨 	曇時々晴 
降水確率(%)	-/-/80/70	50/30/20/10	20
信頼度	-	-	-
東京 気温 (℃)	最高	25	27 (26~30)
	最低	-	15 (15~19)

気象庁 HP から抜粋(クリックすると新しい情報が見られます)

昔と現在の都心の気温を比べると、現在のほうが高くなっています。都心の現在の年平均気温(平年)は15.8℃ですが、観測の始まった明治~昭和の戦前までのころはだいたい14~14.5℃でした。当時と比べると1.5℃も上昇しています。+1.5℃なんてそんなに大きいのか?という疑問がわくと思いますが、 $15.8 - 1.5 = 14.3$ ℃なので、現在の年平均気温が14.3℃の地点を調べると、

宇都宮の気温になります。つまり、戦前までの都心の気温は現在の宇都宮に相当します。宇都宮の冬は朝-5℃以下にも下がり厚い氷が張ります。戦前は都心でも寒い日は-5℃以下になり、1936年に-7.2℃を記録した日があります。

これまでの都心の気温がどのように上昇してきたのかグラフにすると図のようになります。温暖化は徐々に進んでいるのがわかりますね。

※平年値は1991-2020年のデータを基に作成されています。

